

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	由宇町立由宇小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	3	2	15	24
児童数	59	76	59	69	74	86	6	429	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「きらきら わくわく 由宇小っ子」 ～自ら課題をもち、生き生きと学ぶ児童の育成～</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・全教科(特に、国語・算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着をめざした授業改善の必要性があるため。(問題解決的な学習の展開) ・学習主体である児童に、瞳を輝かせ、知識・技能・意欲・関心・表現力・判断力など学力の要素を総合的に身に付けさせる必要があるため。 <p>3・4年生(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」「書く」「読む」の国語科における基礎・基本の定着を図り、学習や生活等の様々な場で、自分の思いや考えを素直に表現できるようにさせるため。 <p>5・6年生(算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「計算力」「数学的思考力」等の算数科における基礎・基本の定着を図り、学習や生活等の様々な場で、使えるようにさせるため。 ・児童の実態、理解の状況等に差が出やすい教科、学年であるため。 ・学校として、該当教科に関する研究実績があるため。
--

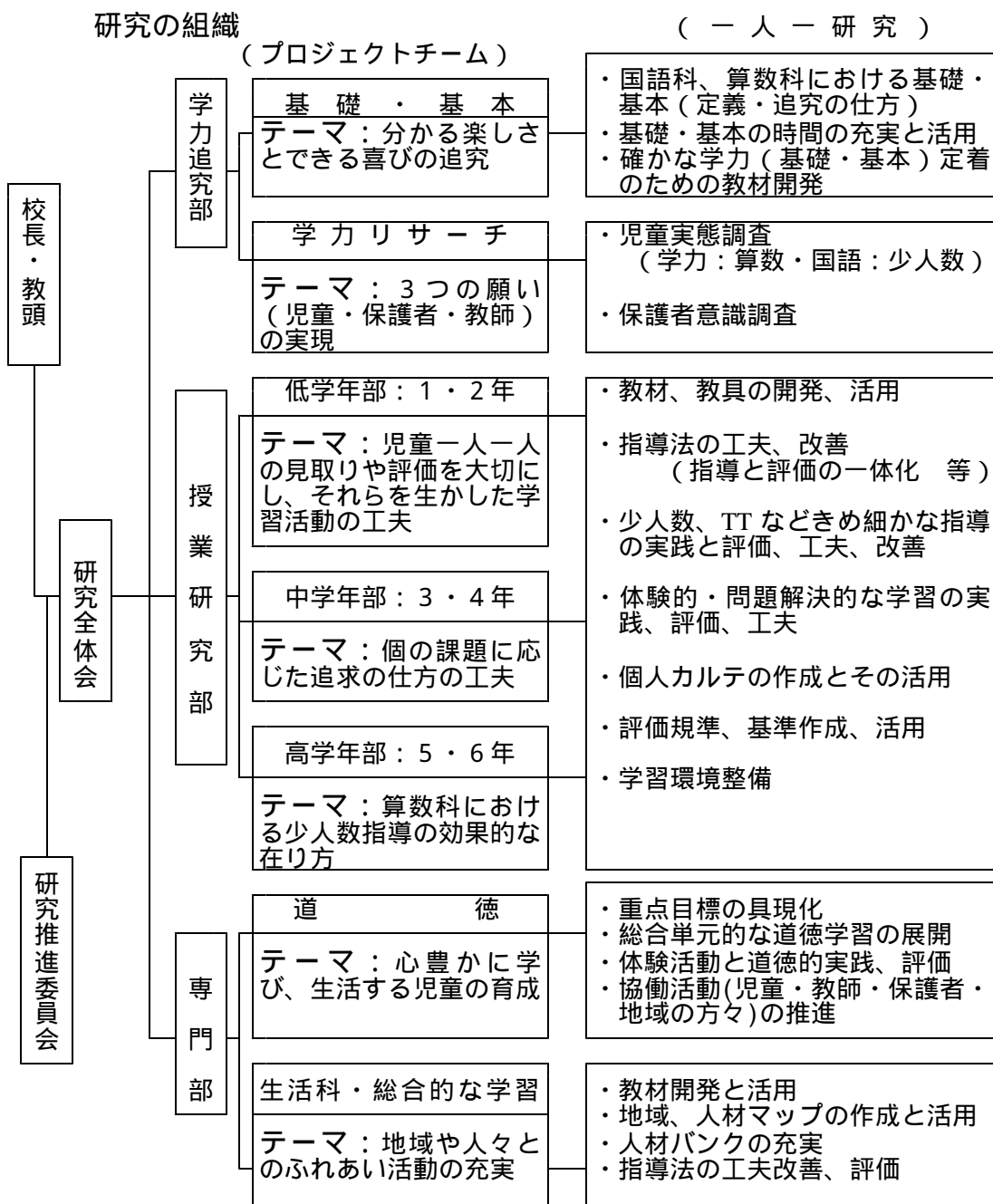
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ：わくわくする授業を創造しよう！</p> <p>仮 説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題のもたせ方や追究の仕方を、どの子どもにとっても身近でわかりやすく、楽しいものになるよう工夫改善すれば、課題意識や追究意欲が高まり、自ら課題をもち追究する学び本来の面白さに気付くのではないか。 ・児童一人一人の見取りや評価を大切に、それらを生かした学習活動を展開すれば、個々の思いや願い・よさや可能性を生かした授業となり生き生きと学ぶ児童の育成が図れるのではないか。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力、評価、授業展開、基礎基本の定着」等の共通理解と組織づくり、実践。 ・教科担任制の導入：6年(社会・理科・体育)5年(理科・書写)4年(社会・理科・図工・書写)3年(社会・書写) ・人材バンクの作成と活用。 ・教材・教具の開発。 ・授業展開。(低学年・中学年・高学年のよる校内授業研究実施。)少人数指導の授業実践。 ・学校評価。(自己評価と第三者による評価)学校評議員、学校安全対策推進員等による学校評価の実施。
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ：きらきら輝く学びの世界を創造しよう！</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題のもたせ方や追究の仕方を、どの子どもにとっても身近でわかりやすく、楽しいものになるよう工夫改善すれば、課題意識や追究意欲が高まり、自ら課題をもち追究する学び本来の面白さに気付くのではないか。 ・児童一人一人の見取りや評価を大切に、それらを生かした学習活動を展開すれば、個々の思いや願い・よさや可能性を生かした授業となり生き生きと学ぶ児童の育成が図れるのではないか。 ・昨年度の仮説をもとに、授業改善（問題解決的な学習の展開）の実施と教員の意識改革（児童による授業評価実施）を図ることで、心をわくわくさせ、瞳をきらきらと輝かせて授業に取り組む児童の育成が図れるのではないか。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力、評価、授業展開」の工夫、見直し、改善、実践。 低学年・中学年・高学年の校内授業研究の実践。 「授業研究会」における、低学年・中学年・高学年の授業公開と全体会での研修の取組発表。 ・学力テストの実施。（2月） ・教科担任制の導入：高学年、教科の拡大。（家庭科・図工） 6年（国語：書写 社会 理科 音楽 家庭科 体育） ・教材・教具の開発。 ・人材バンクの活用。 ・授業展開。（2月6日授業研究会における、低学年・中学年・高学年の授業公開と全体会での研修の取組発表。） ・学校評価。（自己評価と第三者による評価） 保護者、学校評議員、学校安全対策推進員等による学校評価の実施。 （3月） ・児童の意識調査。（1月） ・保護者の意識調査。（3月） 中学年は、国語の少人数指導導入のため教科担任制を行わない。
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ：生き生きと学ぶ未来を創造しよう！</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題のもたせ方や追究の仕方を、どの子どもにとっても身近でわかりやすく、楽しいものになるよう工夫改善すれば、課題意識や追究意欲が高まり、自ら課題をもち追究する学び本来の面白さに気付くのではないか。 ・児童一人一人の見取りや評価を大切に、それらを生かした学習活動を展開すれば、個々の思いや願い・よさや可能性を生かした授業となり生き生きと学ぶ児童の育成が図れるのではないか。 ・昨年度の仮説をもとに、授業改善（問題解決的な学習の展開）の実施と教員の意識改革（児童による授業評価実施）を充実、発展させることで、心をわくわくさせ、瞳をきらきらと輝かせて授業に取り組む児童の育成が図れるのではないか。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力、評価、授業展開」の発展。 校内授業研究の実践。評価規準の見直し。 学力テストの実施。（2月） ・教科担任制導入。（教師間の得意分野を生かした教科担任制） ・人材ネットワークづくりの拡充と活用。 ・教材・教具の開発（地域素材の発掘と教材化） ・授業展開。（子どもの学びの力を生かす） ・学校評価。（自己評価と第三者による評価。） 保護者、学校評議員、学校安全対策推進員等による学校評価の実施。 （3月） ・基礎・基本を押さえた教育課程の展開。 ・児童の意識調査。（1月） ・保護者の意識調査。（3月） ・問題解決的な学習の取組と評価。
----------------	--

(3) 研究推進体制



・情報収集、情報発信（HP作成等）教務部、総務部を中心にして実働部隊（プロジェクトチーム）を結成し活動する。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導にかかわり、児童の学習の見取りを実施することで、次時の指導を見直すことができた。(見取り 評価 指導の三位一体：継続的改善を図る。) ・見取りカードの作成・改良・活用。 ・国語科、算数科の評価規準の作成。 ・指導に工夫が生まれ、児童がわかるようになってきたため授業が楽しいとの声が多くなった。また、分からないことについては、教師や保護者、友達にたずねたり、自分で調べたりする児童が増えてきた。 		
「児童の意識調査より」	平成14年度	平成15年度
勉強は好きですか	66.3%	68.2%
勉強は楽しいですか	78.2%	83.2%
発表することが好きですか	50.8%	54.6%
分からないことは自分で調べる	18.6%	21.1%
分からないことはたずねる	70.2%	77.2%
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着のために取り組んだ学習プリント(マスタープリント)の作成と活用が効果を現しはじめた。(発展的な学習、補充的な学習への取組) 国語：漢字 算数：計算領域。 ・毎朝の読書(ラブックタイム)活動により、一日の学習を落ち着いて始めることができた。 		

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでもできる児童の学習における見取りの確立。(見取りの一般化) 見取りカードの改良。 ・単元全体を見通し、見取りを次の学習へ発展させる方策の深化。 見取りカードの評価への転用。 ・各学年における独創的な試みの組織化。 学年間の連携。 ・発展的な学習、補充的な学習の重点化。 国語科、算数科の発展的、補充的プリント(マスタープリント)の作成と活用。 ・学習材・教材教具の開発。 地域の人材、素材の活用。

学力等把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"> ・授業時における児童の見取り。 ・児童の意識調査。(7月・2月) ・保護者の意識調査。(3月) ・児童による授業評価。(単元の終了時) ・学力調査。(2月)
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"> * 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定 ・11月15日(土)「ゆう きらきらスクール」 保護者・地域 「学びの発信」(生活科・総合的な時間等) 人、文化、自然とのふれあいの中で、私たちのふるさと「由宇」のよさを、そして、自分自身を見つめ、そこから学び取ることの楽しさを味わう。 ・2月 6日(金)授業研究会(授業公開・全体会・講演) 県下各小・中学校 「学力フロンティアスクールとしての取組中間発表」 * 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績(学校としての創意工夫を含む)及び今後の予定 ・平成14年度HP作成(内容については、追加・改訂) ・「研修のあゆみ」・「研修のあゆみ資料編」作成。 ・「研修の取組についてのCD-ROM」作成。 * フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定 ・先進校視察や各研修会、学力向上地区推進協議会等に参加し、発表や校内での復伝を行う。 * 継続校において、研究成果の普及活動の成果 ・他県よりの研修視察(2市町村より) ・HPに、アクセスあり。(1月31日現在、3,300件)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無